

二子山山行報告

【山行日】2018年4月12(水) 快晴

【集 合】岩舟支所P AM 5:00

【費 用】マイカー1台 : 1,700円

【メンバー】CL:鈴木、石川、岩淵、大西、
梶内、関

【コースタイム】岩舟支所 P5:00＝坂本登山口
P7:15/7:40～股峠 8:40/8:50～東岳 9:40/9:50～
股峠 10:20～西岳 11:00/11:10～魚尾道分岐下
12:50/13:20～坂本登山口 P13:50/14:05＝
岩舟支所 P1700



夏の穂高岳山行のトレーニング山行として、二子山に登りたいとリクエストがあり計画した。二子山は遠くからでもすぐにそれと分かる、兎の耳のような特異な山容を持つ山である。上部に突き出た、石灰岩からなる白っぽい二つの岩峰に登高意欲をそそられる。南側がすっぽりと切れ落ちた岩稜は緊張を強いられるが、さえぎる物のない展望はすばらしい。



皆野・寄居道路から国道299号線を進み、民宿「登人」の先を右折しトイレの側の路側帯に駐車する。トイレを済ませ、ストレッチを行って出発する。駐車場所のすぐ脇が登山口になっており、ここから股峠に向かって登山道を登り始める。道はやがて仁平沢沿いに進むようになり、薄暗い杉林の中を登って行く。岩がゴロゴロとした急坂を登り、滑りやすい急斜面を九十九折れに登って行くと鞍部の股峠に着く。股峠は十字路になっており、まずは右に進み東岳を目指す。雑木林の中の急な登山道を登るが、粘土質の土が

昨夜の雨で滑りやすく足を取られ難儀する。東岳への難所トラバースのクサリ場は、土が付いた靴が滑り通過に時間がかかる。ようやく通過し石灰岩の岩稜を慎重に登り、傾斜が緩くなると東岳山頂に着く。山頂からの眺望は素晴らしいが、これから登る西岳はガスに包まれ山頂が見えない。眺望を楽しみながらデコポンやまんじゅうを食べ、記念写真を撮ったら下山する。下山もトラバースのクサリ場は慎重に下り、少し時間がかかったが股峠に戻り直進して西岳に向かう。急な尾根を登るとすぐに岩場にぶつかり、右に一般車向けの巻道があるが我々は稜線を直登する経験者コースを進む。経験者コースはクサリや



ロープが一切無く、簡単なロッククライミングのルートで岩に自信がある人以外は登ってはいけない。皆さん岩登りが好きなメンバーだが、若干1名苦手な方がいる。しっかりしたホールドはあるが、スタンスが小さく登山靴では登りにくい箇所がある。それでも皆さん楽しそうに登り、無事稜線上に登り上がる。天気は晴れて来て暖かく、稜線上で眺望を楽しみながら休憩する。難所を登り切り皆さん笑顔で嬉しそうだが、まだまだこの先も気が抜けない。稜線上を少し進むと一般コースと合流し、ほんのひと登りで西岳山頂に着く。

山頂は狭いが我々だけの貸切なので、存分に眺望を楽しみ記念写真もゆっくり撮ることが出来た。頂上からは360度の大大パノラマが広がり、両神山や西上州の山々の絶景を望むことが出来る。



眺望を楽しんだら下山し、岩稜を北西に向かって進む。高度感ある岩稜は爽快に歩けるが、とにかく落ちたら最後なのでゆっくり慎重に進む。岩稜の西端まで進むと、長いクサリ場がありここを下れば危険箇所は無くなる。大きな岩の下を進むと分岐になり、直進するとローソク岩へ向かい、我々は右に下り魚尾道峠に向かう。植林帯の道を下り、真っすぐ尾根通しに下ると明るく開け平らな場所で遅い昼食にする。味噌ラーメンを作り卵焼きやタケノコの煮つけなど、腹ペコの我輩にはと

ても美味しく感じた。さっきまで歩いていた岩稜を見あげ、「あれを登って来たんだね～」と皆満足そうにうなずいていた。ここから尾根沿いに緩やかに下ると国道299号線に出て、左に道路を辿ると登山口に着く。トイレを済ませ、靴を履き替えたら帰路につく。日頃の山とは違った岩場の連続で、中々他では体験できない密度の濃い山を登り、皆達成感と充実感に溢れた笑顔が印象的だった。

